

更生を支える力、

保護司という存在

誰かの再出発に、そっと手を差しのべる人たちがいます。保護司と呼ばれる存在が、地域の中でその役割を果たしているのをご存じですか。今回は保護司の活動などについて紹介します。

保護司とは？

保護司は、罪を犯した人や非行をした人の立ち直りを地域で支える「更生保護」に取り組むボランティアです。法務大臣から委嘱を受けて、保護観察中の人との面談や生活状況の把握、助言や指導などを通じて、社会復帰を後押しする役割を担っています。また、関係機関と連携しながら、再犯防止や地域の更生保護についての理解促進にも関わっています。保護司の多くは仕事をしながら活動しており、本市では地域に根ざした更生支援の担い手として、61人の保護司が活動しています(令和8年4月1日現在)。

一日保護司体験の中学生

保護司はこんな活動をしています

生活環境の調整

少年院や刑務所に収容されている人が、釈放後スムーズに社会復帰ができるように、釈放後の帰住先の調査や就労先の確保などを行います。

犯罪予防活動

更生保護について地域や社会の理解を求めるとともに、犯罪や非行を未然に防ぐため、講演会などを行い、安全で安心な地域づくりを支えています。

保護観察

犯罪や非行をした人に対して、更生のために仕事や人間関係などの悩みに助言し、約束事が守られているかを見守ります。必要に応じて関係機関とも連携し、社会復帰に向けた安定した生活を支え、立ち直りを助けます。

更生保護についてお悩みの方の

相談窓口

鈴鹿更生保護サポートセンター ☎・☎059-381-6800

開所日 月曜日～金曜日

開所時間 9時から16時まで

住所 鈴鹿市神戸一丁目17番5号

社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



「社会を明るくする運動」とは？

犯罪や非行のない、安心して暮らせる地域社会をつくるための全国的な取り組みです。法務省が主催し、毎年7月を強調月間として、全国の自治体・保護司会・更生保護関係団体が連携して実施しています。

鈴鹿市での主な啓発活動

- 白子駅での啓発活動
- 中学生の「一日保護司」体験
- スポーツ大会の会場での啓発活動

立ち直りを支援する人たち

立ち直りを支える活動は、地域の安全を守るうえで欠かせない取り組みです。本市でも、保護司のほかに、さまざまな立場の支援者が、それぞれの役割を生かして活動しています。

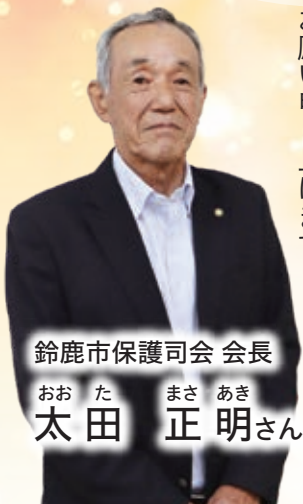


更生保護女性の会

地域の女性によるボランティア団体で、子どもや家庭を見守り、犯罪や非行を防ぐ活動を行っています。

BBS会 (Big Brothers and Sisters Movement)

若者が中心となり、悩みを抱える少年・少女の相談相手となったり、学習支援やレクリエーション活動を通じて成長を支える団体です。年齢の近い立場から寄り添うことで、子どもたちが前向きに歩む力を育みます。



鈴鹿市保護司会 会長
おおた まさあき
太田 正明さん

保護司活動の中での大きなやりがいは、過ちを犯した人が立ち直りに向けて前向きな気持ちを持ち、社会へ復帰していく姿を見守ることにあります。近年では、孤独が再犯につながるケースも見られ、家族や地域による見守りや支えが、立ち直りにとって重要な役割を果たしていると感じています。

また、犯罪を未然に防ぐことも重要であるとの考えから、学校や地域における犯罪予防講習や啓発活動にも力を入れています。犯罪のない安全・安心な地域づくりのためには、市民の皆さま一人一人の見守りの目が欠かせません。

一方で、保護司は全国的に担い手不足が課題となっており、活動を将来にわたって継続していくための基盤づくりも求められています。保護司会としても、見守りの輪をさらに広げるとともに、活動への理解を深めていただけるよう、引き続き啓発に努めてまいります。

市民の皆さまにおかれましても、地域での見守りの輪を広げる一員として、本活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今回の特集に関するご意見・ご感想

健康福祉政策課 ☎059-382-9012 📠059-382-7607 ✉kenkofukushiseisaku@city.suzuka.lg.jp